（削る）

確認試験

① アンプロリウムの定量法により得た試料溶液は、赤紫色を呈し、その吸収スペクトルを測定するとき、波長528～532nmに吸収の極大を示す。

② エトパベートの定量法により得た試料溶液は、赤紫色を呈し、その吸収スペクトルを測定するとき、波長553～557nmに吸収の極大を示す。

定量法　アンプロリウム　アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）約0.05ｇを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、メタノール（２→３）100mLを全量ピペットを用いて加え、20分間振り混ぜる。この溶液をろ過し、初めのろ液20mLを除き、次のろ液５mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとし、以下アンプロリウム製造用原体の定量法を準用する。

アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）の量（mg）

$$=\text{アンプロリウム標準品の量（mg）}\times\frac{A_T}{A_S}$$

エトパベート　エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）約３mgを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール75mLを加え、20分間振り混ぜ、更にメタノールを標線まで加えて100mLとし、遠心分離する。上澄液10mLを全量ピペットを用いて量ってビーカーに入れ、水酸化ナトリウム試液10mLを加え、以下エトパベート製造用原体の定量法を準用する。

エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）の量（mg）

$$=\text{エトパベート標準品の量（mg）}\times\frac{A_T}{A_S}\times\frac{1}{10}$$

(ｲ) 保存の方法の基準

密閉容器に保存すること。

(129) アンプロリウム・エトパベート・スルファキノキサリン

ア 製造用原体

(ｱ) 成分規格

a アンプロリウム

アンプロリウム・エトパベート中のアンプロリウム製造用原体の成分規格を準用する。

b エトパベート

アンプロリウム・エトパベート中のエトパベート製造用原体の成分規格を準用する。

c スルファキノキサリン

含量　本品は、乾燥した後、定量するとき、スルファキノキサリン（$C_{14}H_{12}N_4O_2S$）98.0％以上を含む。

物理的・化学的性質

① 本品は、淡黄色～黄褐色の結晶又は結晶性の粉末で、臭いはない。

② 本品は、アセトンに溶けにくく、エタノールに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

③ 本品は、炭酸ナトリウム試液又は１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液に溶ける。

④ 本品は、光により徐々に暗色となる。